

ノウ フク



ノウフクJASの概要

障害者が生産行程に携わった食品及び観賞用の植物の農林規格

令和7年12月19日

ノウフクコンソーシアム東日本



ノウフクのブランディング 価値づくりと仲間づくり



全国の多様な実施団体をつなぎ、ノウフク JAS で「潜在的な価値を顕在化」

ブランディングは、価値づくりと仲間づくりの両輪で進めます。ノウフクによるソーシャルマーケティングの中で、ノウフク JAS は特に価値づくりに係り、**世の中に価値をアピール**するものです。

可視化

価値づくり

- ◆ノウフクの定義や規格の構築
- ノウフクロゴマークの制作
- 農福連携の実態調査
- ノウフク JAS の制定**

等々

連携強化

仲間づくり

- ◆プラットフォームの構築
- 農福連携等応援コンソーシアムの設立
- ポータルサイト「ノウフク WEB」の開設
- フォーラム、総会の開催

等々

ノウフク商品



生産者の給料がアップ！ 就農者の雇用拡大！
荒廃農地が減少する！ 食料自給率アップ！ 等々
社会的なメリットが多い商品！

2013年ごろ	ノウフクロゴを制作し、ノウフク・プロジェクトを始動	価値づくり
2014年3月19日	一般社団法人日本基金を設立	仲間づくり
2015年6月22日	農林水産省・厚生労働省が主催の「農福連携マルシェ」開催を支援 ※林農水相と塩崎厚労相がノウフクロゴボードを持ち記念撮影。	仲間づくり
2016年25日、26日	サンマリノ共和国 サンマリノ神社建立2周年記念「ニッポンまつり」でノウフク商品を販売	仲間づくり
2016年11月30日、12月1日	「農福連携全国サミットinみえ」開催を支援 ※2017年7月の「農福連携全国都道府県ネットワーク」設立につながる(三重県が事務局を務める)	仲間づくり
2017年3月8日	全国農福連携推進協議会設立記念フォーラムを開催 ※同協議会は、一般社団法人日本農福連携協会の前身。	仲間づくり
2017年度～2019年度	農林水産省「農山漁村振興交付金」の採択を受け、調査・研究事業を実施(アンケート調査の結果を公表)	
2017年9月	「ノウフクJAS」を農林水産省に規格提案	価値づくり
2017年9月2日、3日	京都マルイで「ノウフクマルシェ」を開催 ※全国から実施団体を集めた販売イベントとしては全国初。	仲間づくり
2018年度	栃木県小山市「小山市農福連携推進5カ年計画」策定を支援	
2019年3月	「ノウフクJAS」が制定され、登録認証機関となる ※2025年11月現在、77事業者(のべ88事業者)を認証している。	価値づくり
2020年	農林水産省が農福連携等応援コンソーシアム設立 ※2020年度以降、農林水産省「農山漁村振興交付金」の採択を受け、本コンソーシアムの運営(以下の活動内容)を行う。 ・優良事例を表彰する「ノウフク・アワード」を開催 ・商談会「ノウフク見本市」や「ノウフク・ショップ」、「ノウフクマルシェ」の実施を通じ販路拡大を支援 ・企業と連携し現場の課題解決を図る「ノウフク・ラボ」を企画・運営 ・広報物(ノウフクポスター／動画／パンフレット等)を制作、農福連携のポータルサイト「ノウフクWEB」で情報発信	仲間づくり
2024年11月～	「ノウフクの日」制定に合わせ、東京都江戸川区のスーパーヤマイチ3店舗で「ノウフクJAS生鮮食品コーナー」企画 ※ノウフクJASを打ち出す青果売場としては全国初。	価値づくり 仲間づくり
2025年1月～5月	羽田空港 第3ターミナルでノウフクJAS商品を中心に販売する「HANEDAノウフク・ショップ」企画・開催 ※ノウフクブランドを打ち出す空港の売場としては全国初。2025年7月からは第2ターミナル「DELEETS」で常設して販売中	価値づくり 仲間づくり
2025年3月	実施団体でつくる「ノウフクコンソーシアム東日本」の設立を支援 ※同年9月には、実施団体でつくる「ノウフクコンソーシアム西日本」が設立	仲間づくり
2025年4月15日～	大阪府堺市「無印良品 イオンモール堺北花田」でノウフクJAS商品を中心とした販売を開始	価値づくり 仲間づくり

ノウフクJAS の概要

ノウフクJAS 基本情報



障害者が「**生鮮食品や観賞用の植物の主要な生産行程**」に携わる必要アリ！

正式名称	障害者が生産行程に携わった食品及び観賞用の植物の農林規格 (JAS0010)（令和6年3月19日農林水産省告示559号）	
適用範囲	障害者が農林水産業における生産行程に携わった生鮮食品及びこれらを原材料とした加工食品 並びに観賞用の植物	
認証を行う農林物資の区分	障害者が生産行程に携わった食品及び観賞用の植物	
要求事項	ノウフク生鮮食品 及び観賞用の植物	◆ 主要な生産行程に障害者が携わっていること。 ◆外部からの問合せに応じて、当該ノウフク生鮮食品及び観賞用の植物の主要な生産行程のうち 障害者が携わった主要な生産行程を回答
	ノウフク加工食品	◆ ノウフク生鮮食品を少なくとも1種類以上使用すること。 ◆原材料のうち上記に規定するものについては、受入れから使用まで、 他のものが混ざらないよう 区分して管理 すること。

ノウフクJASによる価値づくり① ノウフクJASの真価



規格化により「働く人の『多様性、に価値を認める』」

◆均一性より多様性で共生社会を目指す

「ノウフク JAS」の主旨は、「みんなが地域の一員となり、一緒にあって地域を作っていく」取組を評価することです。規格とは本来、均一的で効率的であることを求めます。しかし、ノウフク JAS は「多様であること」に価値を見出します。産地や品種、栽培方法を軸とするブランドではなく、ノウフク商品の背景にある社会的価値を可視化するものです。障害者のみならず、すべての人が他の多様性を受け入れ、非均一性の中にある優しさや強靭さに価値を見出すひとつのきっかけとし、豊かな共生社会を実現する一助になります。



▲管理者と一緒に野菜の手入れをする利用者（CoCoRo ファーム）



▲収穫した菜花を掲げる利用者（さんさんグリーン）

2017年06月	JAS法（日本農林規格等に関する法律）の一部改正
2017年09月	日本基金から農林水産省に規格提案
2017年10月	第1回検討会議（以降1年以上会議を重ねる）
2019年01月	日本農林規格調査会で審議
2019年03月	ノウフクJASが制定される
2019年11月	第1号となる4事業者が認証される
2020年04月	就労継続支援A型事業所等で「スコア告示」の基準に
2024年04月	ノウフクJASの改正により観賞用の植物が対象に追加
2024年11月～	「ノウフクの日」制定に合わせ、東京都江戸川区のスーパー「マイチ3店舗で 「ノウフクJAS生鮮食品コーナー」企画 ※ノウフクJASを打ち出す青果売場としては全国初。 羽田空港 第3ターミナルでノウフクJAS商品を中心に販売する
2025年1月～5月	「HANEDAノウフク・ショップ」企画・開催 ※ノウフクブランドを打ち出す空港の売場としては全国初。2025年7月からは第2ターミナル「DELEETS」で常設して販売中
2025年11月	日本基金により77事業者が認証されている

東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会の『持続可能性に配慮した農産物の調達コード』及び大阪・関西万博の『持続可能性に配慮した調達コード』に推奨基準**として、「ノウフクJAS」を含む「障がい者が主体的に携わって生産された農産物」が載りました。**

ノウフク JAS による価値づくり②

取扱企業の利益—「三方良し」の取組

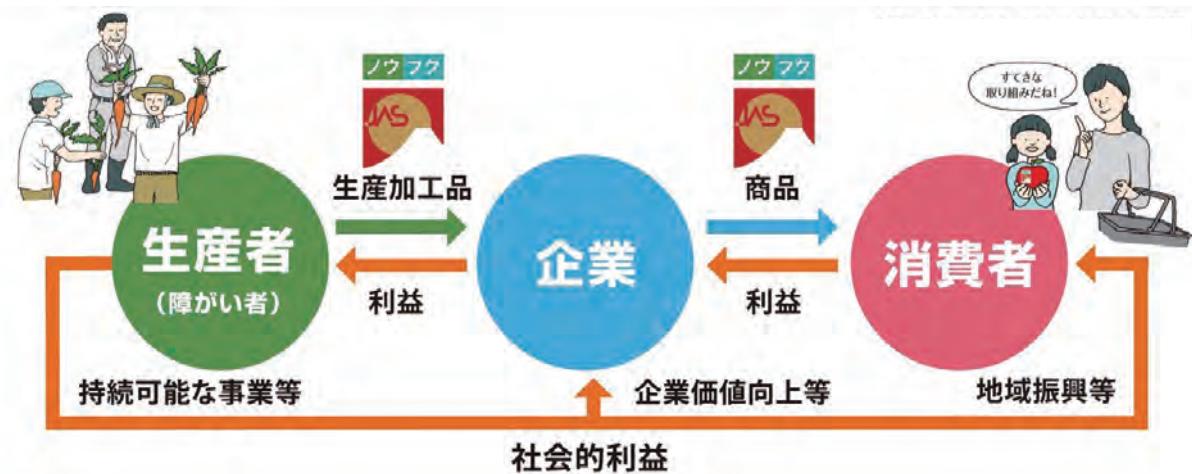
ノウフクとの連携で、「企業価値向上や CSR・CSV の効果」が期待される

◆ESG 投資時代の持続可能な調達

ESG 投資は、従来の財務情報だけでなく、**環境 (Environment)、社会 (Social)、管理 (Government)** の要素も考慮した**投資**のことです。

特に、年金基金など大きな資産を超長期で運用する機関投資家を中心に、企業経営の持続可能性 (Sustainability) を評価する

という概念が普及し、気候変動などを念頭においた長期的なリスクマネジメントや、企業の新たな収益創出の機会 (Opportunity) を評価する指標 (benchmark) として、国連持続可能な開発目標 (SDGs) と合わせて注目されています。



ノウフクJAS の概要

ノウフクJAS 認証件数・品目

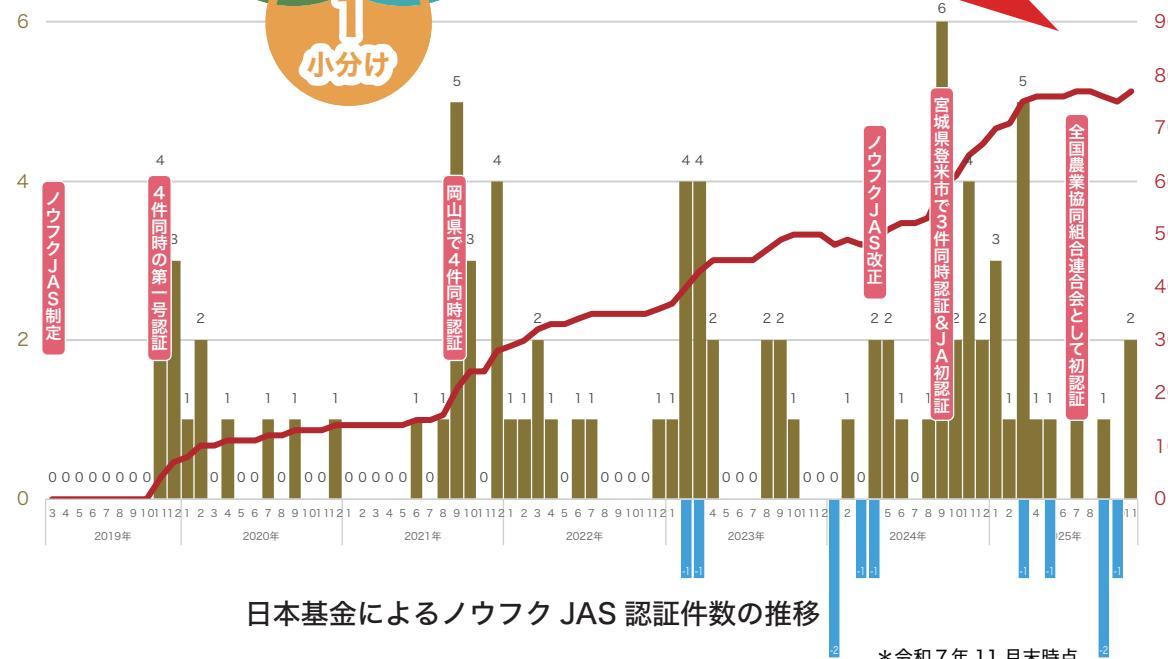


内訳



=

認証件数 *
77 件



◆主な認証品目

ノウフク生鮮食品 = 95品目超

穀物（米や小麦等）、大豆、一般野菜（じゃがいも、にんじん、玉ねぎ等）、小ねぎ、長ねぎ、飲食店向け葉物野菜、果物（りんご、ぶどう、いちご等）、茶、豚肉、牛肉「单角牛」、しいたけ、きくらげ等

ノウフク加工食品 = 65品目超

カットねぎ、干し芋、ジュース、ジャム、梅干し、加工肉（ハム、ベーコン、ハンバーグ等）、乾燥しいたけ・きくらげ、おかゆ、味噌、茶（緑茶、桑茶等）、焼き菓子、「くりーむパン」等

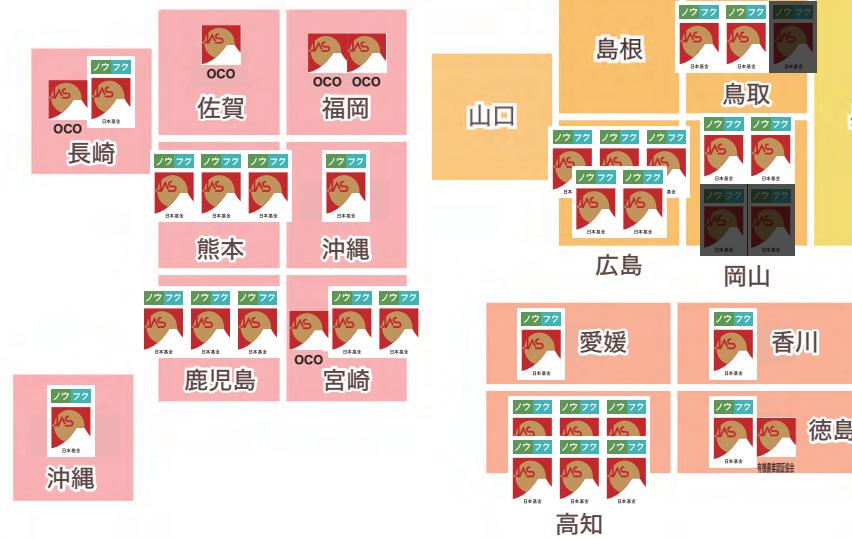
*商材一覧はノウフク WEB (<https://noufuku.jp/know/jas/#jas-seisan>) で公開中

ノウフクJAS の概要

ノウフクJAS の分布

35 都道府県に認証事業者！

高知県が最多の 6 件で、広島が 5 件で追う



山形 3 件

- ◆社会福祉法人月山福祉会（鶴岡市）
- ◆株式会社山形包徳（山形市）
- ◆株式会社バラの学校（村山市）

愛知 3 件

- ◆特定非営利活動法人すまいる（春日井市）
- ◆株式会社ストレートアライブ（名古屋市）
- ◆千代田ファーム株式会社（あま市）



ノウフクJASの効果①

認証事業者の利益—ウィズファームの事例

地域内外へ販路を拓き、躍進を続けています

“くだもの里”長野県松川町の農業法人「株式会社ウィズファーム」は、「ノウフク JAS は障害者が生産行程に携わっている証明」だとして、町立温泉施設でりんごを販売するようになりました。さらにアンテナショップ「銀座 NAGANO」では、ノウフクリんご（350円／個）が真っ先に完売するほど人気に。「ノウフクリんごで作ったりんごジュース」は、「おもてなし心」あふれる商品・サービスを発掘し、世界に広めることを目的としたアワード「OMOTENASHI SELECTION」を受賞。



▲赤く実るノウフクリんご



▲「OMOTENASHI SELECTION」を受賞した
「ノウフクリんごで作ったりんごジュース」



▲りんごを手にする利用者

ノウフクJASの効果②

認証事業者の利益—さんさんグリーンの事例

京都の「有名懐石店や高級ホテル」と取引スタート！

大阪府枚方市にある聴覚障害者の事業所「さんさんグリーン」では、ノウフク JAS を取得して以降、ミシュラン2つ星の高級懐石「祇園にしかわ」はじめ、高級ホテルなど新たな取引が始まりました。店内には「ノウフク JAS 取扱店」の掲示があります。ノウフク JAS の取得により仲卸業者を介し、販路が広がりました。



▲創作フレンチレストランでの使用例（貴匠桜 HP より）



▲ノウフク JAS 農産品取扱店の掲示



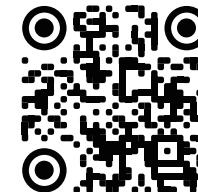
▲高級懐石「祇園にしかわ」での使用例

ノウフクJAS の効果③

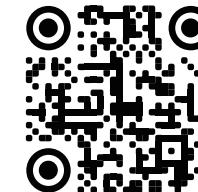
取扱企業の拡大

ノウフクJAS ブランドを打ち出した販売企画が実現中！

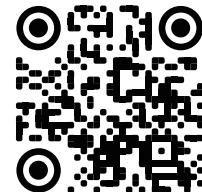
詳細はノウフク WEB をご参照ください。



スーパーヤマイチ



羽田空港



無印良品



▲スーパーヤマイチで月2回生鮮食品コーナー展開



▲羽田空港第3ターミナルで「HANEDA ノウフク・ショップ」開催



▲羽田空港第2ターミナル「DELEETS」へ移動



▲無印良品 イオンモール堺北花田で売場展開中

ノウフク JAS 制定の背景①

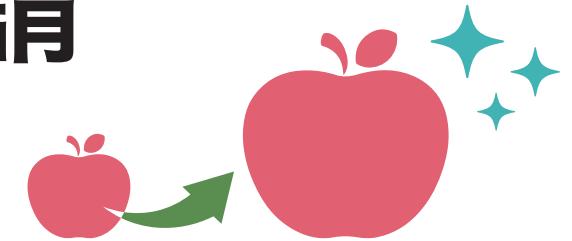
農福連携サイドからの要請

「ノウフク商品のブランド力向上」がカギに

ノウフクの価値観・ノウフク商品の価値をアピールし、付加価値の向上を図り、人や社会・環境に配慮した消費行動を望む購買層に対する訴求力を高めることは、農福連携の取り組みを社会に浸透させるだけでなく、農福連携に取り組む**障害者の賃金・工賃***の向上や**障害者の自立**、さらには農福連携を手段とした**持続可能な共生社会の実現**につながるものと期待されます。

「規格化」がブランド化のひとつの手段

このため、農福連携の取組によって生産された產品を規格として定め、その產品が確かなものであることの説明や証明を容易にするとともに、こうした**「強み」**を規格にすることにより、こうした產品のアピール力を向上させ、**ブランド力が高める**ことが、農福連携を進展させていく上で重要となりました。



ノウフク JAS 制定の背景②

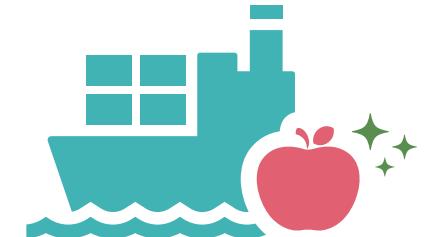
JAS 制度の見直し—攻めの農業

国産品の海外展開が課題

「取引の円滑化・輸出力の強化」のため改訂した

食文化や商慣行が異なる海外市場では、產品に馴染みのない相手に日本產品の品質や特色、事業者の技術や取組などの“強み”を訴求する必要があります。

海外取引の円滑化・輸出力の強化に資するよう、**2017年**に JAS 規格を戦略的に制定・活用できる枠組みを整備し、これを足がかりに**国際標準化も**見据えています。



これまでの JAS 制度

- ◆品質に関する規格を農林水産大臣が制定。
- ◆売り手は説明・証明として、
買い手は取引の判断材料として活用。

これからの JAS 制度

- ◆海外に対し説明・証明、信頼の獲得が容易に。
- ◆日本の強みの**海外への訴求力が向上。**
国際標準化で貿易を有利に。

ノウフク JAS 制定の背景③

JAS 制度の見直し—対象の拡大

対象をモノの品質から、「方法、事業者」にまで拡大！

多様な規格を戦略的に制定・活用できるよう、モノ（農林生産物・食品）の品質だけでなく、モノの**生産方法**、モノの**試験方法**、事業者による**取扱方法**まで**広く対象になりました**。
また、新たな JAS の**提案がしやすい環境**を整備しました。

モノの品質	モノの生産方法	事業者による取扱方法	モノの試験方法
<p>一定の原材料、成分等を満たす 產品の基準。</p> <p>例 こいくちしょうゆの JAS 規格</p>  <p>◆原材料：大豆、麦、食塩等のみ ◆全窒素分：1.50% 以上（特級） 1.35% 以上（上級） 1.20% 以上（標準）</p>	<p>一般的な方法により生産される 產品の基準。</p> <p>例 伝統的な抹茶製法の JAS 規格</p> <p>本物を類似品と差別化できる</p>  <p>伝統製法の抹茶 通常の茶葉の粉末茶</p>	<p>一定の方法により生産、保管・ 輸送、販売等を行う事業者の基準。</p> <p>例 鮮度を維持できる事業者の JAS 規格</p> <p>管理能力のある認証事業者が 鮮度をウリにできる</p>  <p>適切な保管・輸送方式</p>	<p>特定の成分などの測定、分析方法を 公定化するもの。</p> <p>例 臭みが出ない養殖技術の JAS 規格</p> <p>臭み成分の統一的な測定・分析 方法を規格化</p>  <p>臭み成分 高 低 一般養殖 特殊な養殖</p>

ノウフク JAS 制定の背景④

JAS 制度の見直し—マークの統合

特色ある JAS マークを統合! 「信頼の日本品質」をイメージ

特色のある JAS マークは、有機食品、地鶏肉など 4 種類ありました。今後の新たな JAS マークの制定・活用を見込み、マークのブランド力・認知の向上が課題に。

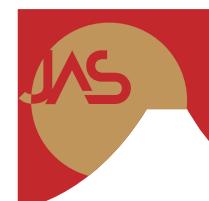
これを解決すべく、**新たなマーク**を制定。有機 JAS マークを除く 3 種類は**統合**し、その規格の**内容を示す文言**をマークに**表示**することになりました。

品質保証の
JAS マーク

環境にやさしい
有機 JAS マーク

NEW
特色ある食品の
特色 JAS マーク

相当程度明確な特色的ある JAS を
満たす製品などに付されます。
現在はノウフク JAS など 15 種類*。
規格の内容を上部に表示します。



統合



*2020 年 4 月 16 日現在。

ノウフク JAS の制度① 2つの認証基準

技術的基準で管理体制を規定
障害者の働きやすさを高める事項も！



▲きくらげを整える障害者たち (GrinFactory)

日本農林規格 (JAS) の基準

- ◆ノウフク生鮮食品／ノウフク加工食品／ノウフク観賞用の植物と呼べる商品の要求事項を満たすもの
=障害者が生産行程に携わった食品及び観賞用の植物

技術的基準

重要

- ◆認証事業者の**管理体制への要求基準**
- ◆例えば、「生産行程管理者の認証の技術的基準」には、内部規定で「障害者に対するあらゆる差別の排除」など障害者が作業しやすい環境の創出に関する規定がある

ノウフク JAS の制度②

表示方法

加工に使う「ノウフク生鮮食品の割合」を明らかに



▲ノウフク加工食品の表示例

ノウフク生鮮食品・ノウフク観賞用の植物

- ◆包装・容器、送り状、または製品に近接した掲示、その他見やすい場所に表示



▲包装されたノウフクいちご

ノウフクという用語

ノウフクの説明

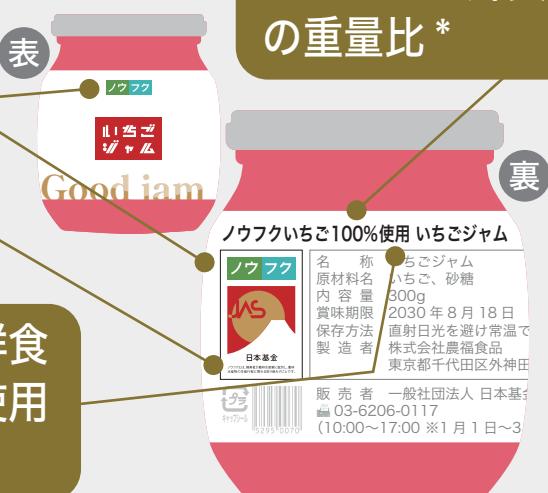
作業記録を特定するための識別番号

ノウフク加工食品

- ◆包装・容器に表示

原材料に使用した
ノウフク生鮮食品
の重量比 *

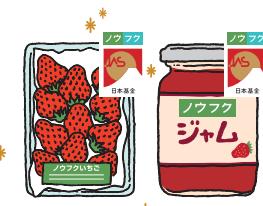
ノウフク生鮮食
品を原料に使用
している旨



*正確には、ノウフク生鮮食品及びノウフク生鮮食品と同一原材料を合わせたものの重量に占めるノウフク生鮮食品の重量の割合。

ノウフクJASの制度③

認証取得の流れ・費用



*いずれも税抜きで、日本基金による認証の場合です。

組織概要

ノウフクコンソーシアム東日本

共に耕す、みんなの未来

設立 令和7年3月21日

役員 会長 森下博紀（株式会社ウィズファーム 代表取締役）

副会長 内野美佐（社会福祉法人土穂会ピア宮敷）

副会長 小淵久徳（社会福祉法人ゆずりは会 理事）

理事 笠間令子（株式会社笠間農園 取締役）

理事 川島翔平（ちば東葛農業協同組合 指導経済部 係長）

理事 鈴木崇之（帝人ソレイユ株式会社 取締役兼社長補佐）

理事 高橋由佳（一般社団法人イシノマキ・ファーム 代表理事）

理事 中井貴宏（株式会社バラの学校 専務取締役）

特別相談役 宮下 一郎 衆議院議員

今井絵理子 参議院議員

事務局 一般社団法人クロスオーバー

農福連携に関わる事業者が主体となり、連携し協力し合い農福連携の推進を図り、地域住民や企業、団体、行政等多様な関係者の連携を促し、その取組によって生活の安全基盤である食糧等の生産、自然環境や文化の維持継承、地域コミュニティ構築等、安全で安心できる持続可能な共生社会の実現を図ることを目的とし、また農福連携の取組やそこから生まれる商品の価値向上を目指しています。



日本基金

JAPAN FUND

日本の未来をデザインする

名称 一般社団法人日本基金

設立 平成26年3月19日

役員 代表理事 國松繁樹、理事 木下卓、末松広行（元農林水産事務次官）

所在地 〒113-0034 東京都文京区湯島 1-2-13 御茶ノ水明神ビル 4階

電話 03-3518-5196

メール info@nipponkikin.org

農林水産省登録認証機関第118号

日本基金は、自然と調和・共存することで得られる安心をベースにした幸福感をもたらす暮らしを次世代へと継承するために、多様な能力を持った「現場力」を全方位につなげデザインすることで、新たな共生型の社会的事業を創出し、社会に還元していく取組をしています。設立当初より「農福連携」を推進するため参画している多様なメンバーそれぞれが持つ知見・ノウハウ・技術・ネットワーク・情報を提供取り組んでいます。

一般社団法人日本農福連携協会の立ち上げにおいて中心的役割を担ったほか、2020年度からは農福連携等応援コンソーシアムの事務局運営に携わっています。

ノウフクコンソーシアム東日本 日本基金